

# 神奈川歯科大学・被災者支援プロジェクト

～ 第1回 本格支援までの情報収集および現地視察等・陸前高田市 ～

報告者：久保田 進也（技工科）

## 【日 程】

平成23年4月28日～5月1日

## 【参加者】3名（五十音順）

久保田進也（歯科技工士・附属病院 技工科）

浜田作光（歯科医師・16回生）

渡辺宏春（歯科医師・18回生）

## 【活動内容】

○陸前高田市・吉田歯科医院（吉田正紀先生・9回生）（震災・津波により全壊）：

仮設の臨時歯科診療所・歯科技工所に対して、神奈川歯科大学より歯科技工用器材を調達、運搬と設置。

○陸前高田市・仮設の臨時歯科診療所及び歯科技工所（陸前高田市立第一中学校・避難所内）：

診療補助。

○陸前高田市、大船渡市、気仙沼市の被災状況の視察

## 《 第1日目：4/28 》

大学での通常業務終了後、歯科医療支援物資を車両に積み込み、午後10時過ぎに陸前高田市に向け、神奈川歯科大学（横須賀）を出発。3名で交代しながら運転と仮眠を取りながら、現地入り（到着：翌朝6時半、休憩も含め約8時間半の車両による移動）。

プロジェクト活動の際、現地の皆さんに認知していただく目的で、神奈川歯科大学・同窓会・KDC-SASのロゴが入ったお揃いのベストを常時着用。（このベストは参加した浜田医師が急遽、作成）



## 《 第 2 日 目 : 4 / 29 》

(午 前) 9 時より、陸前高田市の避難所内の臨時歯科診療所での診療に参加

3 日後の 5 月 2 日から吉田先生の仮設歯科医院が開業予定で、吉田先生が開業準備で仮設診療所に詰めていたため、我々プロジェクトチームが、陸前高田市立第一中学校の避難所内に設置された臨時の歯科診療所での診療活動を行いました。(避難所内の臨時歯科診療所は 4 月 30 日で終了しました)

診療時間：午前中のみ (9 時から 12 時：来院した患者さん 12 名)

診療内容 (応急的な処置が主)：

- ・外れてしまったクラウン (金属のかぶせ物) やブリッジ (固定性の入れ歯) の再装着。
- ・義歯 (入れ歯) の調整や修理など。
- ・その他、急を要すると判断した診療にとどめ、スケーリング (歯石を取り除く) などの患者さんは、歯科医院が再開する旨をお伝えし、お断りをしました。



\* 現地で治療に従事されていた衛生士さんは 3 名。皆さん別の歯科医院で働いていたようですが、それぞれ、診療室が壊滅的な被災を受けたため、この仮設の臨時歯科診療所でボランティア活動をされていました。

(午 後) 吉田歯科医院の仮設歯科医院への歯科技工用器材等の搬入及び設置。

今回、寄贈した器材 (主に本学の歯科技工専門学校で使用していた器材)：

- ・ サンドブラスター ・ 石膏トリーマー ・ バイブレーター ・ ハンドエンジン
- ・ プレス機 ・ プンゼン灯 2 台 ・ レーズ研磨機 ・ 咬合器 (ハンディー) 3 台
- ・ その他消耗品 (研磨材・レーズ用ブラシ・モデルプレートなど)



現地の通信状態が非常に悪く、事前に現地との細かい打ち合わせができなかったものの、接続部分の部品等は考えられるものをある程度用意しておいたので、何とか設置でき、開業時には使用（稼動）できる状態になりました。

「これだけ揃えるには相当な費用がかかるので、とても有難い」（吉田先生・談）などと、コメントを頂戴しました。

### 《第3日目：4/30》避難所内の臨時歯科診療所最終日

（午 前）9時より12時まで診療。（来院した患者さん：8名）

（午 後）吉田先生のところにボランティアでいらしていた歯科衛生士の牛山京子さんに同行し、大船渡市の介護施設（グループホーム）で行われた歯科衛生士さん向けの口腔衛生指導の現場の視察。

こちらの施設は、認知症患者さんの施設で、津波で家を流されてしまった方がいらっやいました。

（\*牛山さんは、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士であり、口腔ケアに関する著書を出すなど、多方面で活躍されている方です。翌5/1、牛山さんには、気仙沼のボランティアセンターでもお会いし、自治医大医学部同窓会が立ち上げた震災支援プロジェクトの方々と一緒に活動されていました。）

### 《陸前高田市の状況》

陸前高田市の人口 24,277 人、世帯数 8,173、倒壊家屋 3,340 戸。

私たちが向かった 4 月 29 日現在で陸前高田市の死者は 1,429 人・行方不明者 772 人・避難所 87 ヶ所・避難者約 15,000 人。

陸前高田まで約 10 キロの地点では、津波の被害がなかったようで、一見したところ、建物等に大きな被害を受けた様子はみられませんでした。ところが、津波が到達したと思われる地点を境に風景は一変します。気仙川約 10km 上流まで押し寄せた津波の痕には、至る所に車や家らしき残骸、看板や鉄骨などが散乱していました。



陸前高田市内の被災状況は大きく、海拔の低い平地に役場や病院があり、町としての機能をすべて失っている状態でした。

我々が訪れた日は天候もとても良く、青空が広がっていましたが、窓を開けると、港独特の漁で使う網や潮の匂いが入ってきます。



一方、海岸付近になるとこれにオイル等の匂いが混ざって、なんともいえない匂いです。

内陸にある田畑は、海岸からのガレキで埋め尽くされていました。沿岸部ではガレキの撤去が終わったかのように何もかもが流され、建物は一切残っていない状態でした。

陸前高田市にあった歯科医院は全部で 9 ヶ所、現在診療可能な歯科医院は 2 ヶ所となっています。高台の公園に仮設役場が設置され、仮設トイレや給水場が設けられていました。

吉田先生のご自宅もこの高台にあり、被災当日は沿岸部にある診療所にいましたが、地震後ご自宅の様子を見に帰っている間に津波の被害に遭い、診療所で残ったものはスリッパ1つだけだったそうです。

電気は回復していましたが、水は未回復（5月中に回復見込）。  
電話は一部不通。



避難所となっている陸前高田市立第一中学校は海岸から約3キロの地点にありますが高台にあるため、難を逃れました。それでもすぐ下まで津波が来たそうです。

この避難所は陸前でも1番大きな避難所で、約500名の避難者の方が生活をされています。

グラウンドには約60世帯入居可能な仮設住宅がありましたが、まだまだ足りないとのことでした。

避難所よりも少し内陸に位置する広場に吉田先生の仮設歯科医院があります。  
翌日にはユニット（歯科診療台）が入る予定で、我々が訪れた時はまだ何もない状態でした。



同じ敷地内には、文具店、八百屋、スーパーがあり、新鮮な野菜、肉や魚、牛乳、卵までありました。  
こちらにあるスーパーは震災の翌日から開業されているそうです。

避難所の子供たちに文具等をプレゼントする際は、こちらにある文具店でお願いしますとの、案内が出ていました。

### 《大船渡市の被災状況》

陸前高田市に戻る途中、大船渡市を視察。

市街地に入る前の少し高い場所には津波が来ていませんが、少し下ると、津波の被害を受けた町並みが広がっています。

大船渡市の人口 40,738 人、世帯数 14,814、倒壊家屋 3,630 戸、死者 300 人、行方不明者 155 人、避難所 56ヶ所、避難者 6,290 人となっています。（4月30日現在）

歯科医院は 18 件中 7 件が診療可能。

大船渡市には大きな漁港や魚の加工工場があり、陸前高田とは違ったオイルや腐敗した魚などの、鼻を突く匂いが充満していました。

#### 《第4日目：5/1》

活動最終日の5月1日は気仙沼市役所、ボランティアセンターへ訪問し、被災状況や歯科医療の現状を視察。

気仙沼市の人口 74,247 人、世帯数 26,601、倒壊家屋 10,244 戸、死者 886 人、行方不明者 1050 人、避難所 58 ヶ所、避難者 5,250 人となっています。(4月30日現在)

歯科医院は24件中7件が診療可能。

役場や病院は高台にあったため被災を逃れました。役場が被災していないためか、ボランティアの受け入れ態勢も整っており、連休も重なって多くのボランティアの人がセンターに集まっていました。

気仙沼市内の被災状況を視察。

大きな漁港や造船所があり、たくさんの船が打ち上げられ、焼けた船の匂いがまだ残っていました。被災の大きな場所へは、通行止めのため入れず、港のみの視察となりました。

帰路は気仙沼を午前11時に出発し、神奈川歯科大学(横須賀)に到着が夜の10時頃、往路と同様に3人で交代しながら運転し、延べ11時間の移動となりました。

#### 【最後に】

今回の活動はこれから長きに亘る支援活動の始まりに過ぎないと思います。場所によって被害状況も様々ですし、ニーズも違うはずですが、私たちには何が求められ、何ができるのか、今後も現地との入念な打ち合わせと十分な準備が必要になってくると感じました。

今回この様に貴重な活動の機会を与えていただきました、小林病院長を始め、大学関係者の皆様、佐藤学長及び、平田事務局長ならびに KDC・SAS の皆様にも、この場をお借りして深く感謝申し上げます。